

5. 勤労世代日本人男性における就業状況と循環器疾患死亡リスクの関連 NIPPON DATA90 20年追跡結果より

研究分担者 奥田奈賀子 (人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授)
研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授)
研究分担者 西 信雄 (医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長)
研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)
研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究協力者 宮川 尚子 (医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター 研究員)
研究協力者 佐藤 敦 (福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室 助教)
研究分担者 喜多 義邦 (敦賀市立看護大学看護学部看護学科 教授)
研究分担者 早川 岳人 (立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究センター 教授)
研究協力者 高嶋 直敬 (近畿大学医学部公衆衛生学教室 准教授)
研究協力者 藤吉 朗 (和歌山県立医科大学医学部衛生学講座 教授)
研究分担者 岡山 明 (合同会社生活習慣病予防研究センター 代表)
研究分担者 岡村 智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)
顧問 上島 弘嗣 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)
NIPPON DATA90 研究グループ

【目的】社会経済的因子と健康アウトカムとの関連についての報告が多くなされているが、日本人集団における報告は少ない。本邦において転職は一般的でなく無期雇用による就業が一般的に行われてきた。本研究では就業先の従業員数規模と循環器病死亡リスクとの関連を勤労世代男性(30-59歳, 2091名)において検討する。

【方法】NIPPON DATA90の20年追跡データを使用した。データセットより無業の者と有期雇用の者を除外した後に、自営業/管理職と無雇用従業員3群(大企業/公務員、中企業、小企業)の4群に分類した。多変量調整循環器病死亡ハザード比(HR)を算出した。

【結果】小企業従業員では大企業/公務員と比較して、喫煙者は多く、運動習慣のある者は少なく、平均収縮期血圧値は高かった。自営業/管理職と無雇用従業員合計の間で循環器病死亡HRに有意差はなかった。無雇用従業員において大企業/公務員を基準としたとき、小企業従業員の循環器病死亡HRは2.53(95%信頼区間 1.12-5.69)であった。

【結論】小企業に勤務する無期雇用従業員では、大企業従業員/公務員と比較して循環器病死亡リスクが有意に上昇していた。

Circulation Journal. 2019 Jun 25;83(7):1506-1513